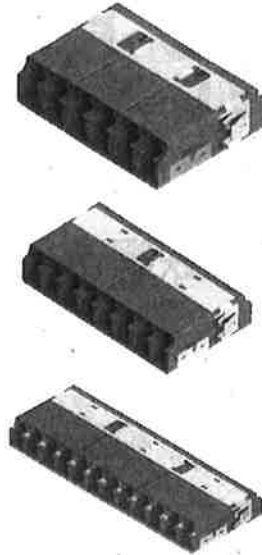


光通信コネクタに新製品

サンコール、12芯の接続可能



スリムバック・クラスター・アダプター(上から6芯・8芯・12芯)

金属精密加工メーカーのサンコールは、光ファイバー用コネクタの新製品「スリムバック・クラスター・アダプター」を開発、8月から販売を開始した。高密度な光ファイバー接続ができることで、大容量化に向けデータセンターなどで高まる

光ファイバー通信向け需要に対応。2025年度の光通信事業の売り上げ規模は、21年度比で2倍の約25億円を目指す。

光通信用コネクタは、光ファイバーケーブル結合用の端子で、データセンター、テレコム、ワイヤレスなどの高速かつ大容量通信に欠かせない部品。近年進むデータの大容量化・高速化に伴い、光コネクタ業界では、狭いスペースに多くの光ファイバーケーブル端子を密集させる高密度

な構造が求められている。

同社では、19年に防塵シヤッター付きの9・4ミリのアダプターを開発。限られたスペースへの接続ファイバー数の最大化を目指し、さらなるアダプターのコンパクト化と多ポートタイプの製品ラインアップを進めている。

今回開発したLCコネクタシリーズの新製品は、高さ9・4ミリのSCフットプリントサイズと呼ばれるアダプタを複数個並列。従来タイプで発生していた隙間がなくなり、スペースのさらなる削減が図れる。ワンタッチで多くの芯数のアダプタをパネルへ組み付けできることで、作業性の向上にもつながる。6芯、8芯タイプについても、近く販売開始を予定している。

場は、ゲームや動画、IoTデバイスの普及、テレワークなどを背景に成長し続け、27年までの市場成長率は年間6・5%とも言われている。

サンコールの光通信事業も日本、米国、中国の拠点を生かし伸張を続けており、同事業部門の21年度の売上高は前年度比27・6%増の12億3000万円を計上。開発品の需要獲得を見込み、25年の部門売上高は約2倍にまで拡大を計画している。

光通信コネクタ市